

【問1】コンビニエンスストアの24時間営業が「大きな曲がり角を迎えそう」とありますが、なぜですか、25字程度で書きましょう。

【問2】なぜ、「営業形態の変更」が求められているのですか。

【問3】①「波及」とはどのような意味ですか。

②何が「波及」するのですか。

①

②

【問4】「コンビニは社会の中でなくてはならない存在となっている」具体的な役割を四つ本文中から書きましょう。

() () () ()
() () () ()

【問5】コンビニの24時間営業について、あなたの考えを書きましょう。

24時間コンビニ

客も意識改革迫られる

便利な暮らしの象徴ともいえるコンビニエンスストアの24時間営業が、大きな曲がり角を迎えそう

だ。最大手のセブンイレブン・ジャパンが24時間営業の見直しに向けた実験を始めることになった。全国の直営店から10店舗を選び、営業時間を午前7時から午後11時まで短縮する。

きっかけとなったのは、大阪府東大阪市のフランチャイズ(FC)契約オーナーが、人手不足から営業時間短縮に踏み切り、本部から契約の解除と違約金を求められたことだ。

24時間営業を見直してほしいとの要望は、ほかのオーナーからも上がっていた。社会的にも注目を集め、セブンイレブンとして対応を迫られた格好だ。

少子化で人手不足が深刻になる中、実情に合わせた営業形態の変

更には避けられまい。便利至上主義だけでよいのか。消費者側にも意識改革が迫られている。

セブンイレブンは東京、熊本などの1都7県から立地や商圏を考慮して店舗を選び、時間短縮による収益や来店客数の変化などを検証。FC加盟店で時短営業を導入するかどうかを検討する。

合わせて、加盟店への人手不足解消の支援も強化し、オーナー業務を本部社員が代行する制度も周知するという。

ファミリーマートはすでに時短営業の実験を始め、ローソンも加盟店の事情に応じて一部店舗で時短営業を認めている。

商圏や客層によつては24時間営業でなくてもよい店はあるはずだ。業界全体で多様な店舗運営が認められるような仕組みづくりを進めてほしい。

人手不足から、営業時間やサー

ビスを見直す動きは外食産業や宅配業界で先行している。

ファミリレストランの「ロイヤルホスト」は24時間営業の店舗を段階的に減らし、2017年1月に全廃した。宅配業界ではヤマト運輸が社員の昼休憩を優先するため、正午から午後2時の時間帯指定配達を廃止している。

コンビニの時短営業が進めば、人手不足への対応を迫られるほかの業界にも、見直しの動きが波及する可能性がある。

各種支払いや荷物の受け取りなども含め、コンビニは社会の中でなくてはならない存在となっている。災害時や夜間の防犯の拠点の役割も担う。だが、過酷な労働に支えられた利便さであっていいはずはない。

過剰を排し、適正で持続可能なサービスを求める暮らしへ。社会全体が変わる必要がある。

2019年3月6日付 5面

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説 象徴(しょうちょう) 迎(むか)え 店舗(てんぽ) 契約(けいやく) 踏(ふ)み切(き)り 違約(いやく)=約束を破ること 迫(せま)られた 変更(へんこう) 避(さ)け 商圏(しょうけん)=商店や商店街などが商取引を行う地域の範囲 考慮(こうりょ) 支援(しえん) 全廃(ぜんぱい) 休憩(きゅうけい) 波及(はきゅう) 支払(しはらい) 含(ふく)め 拠点(きょてん) 過酷(かこく)=きびしすぎるようす 過剰(かじょう) 排(はい)し



【問1】コンビニエンスストアの24時間営業が「大きな曲がり角を迎えそう」とありますが、なぜですか、25字程度で書きましょう。

営業時間を午前7時から午後11時までに短縮するから。

【問2】なぜ、「営業形態の変更」が求められているのですか。

少子化で人手不足が深刻だから

【問3】①「波及」とはどのような意味ですか。

②何が「波及」するのですか。

①波紋が広がっていくように、あることの影響が、次から次へと伝わって、広がっていくこと。【例解国語辞典第九版 三省堂】

②営業時間やサービスを見直す動き

【問4】「コンビニは社会の中でなくてはならない存在となっている」具体的な役割を四つ本文中から書きましょう。

(各種支払い) (荷物の受け取り)
(災害時の拠点) (夜間の防犯の拠点)

【問5】コンビニの24時間営業について、あなたの考えを書きましょう。

24時間コンビニ

客も意識改革迫られる

便利な暮らしの象徴ともいえるコンビニエンスストアの24時間営業が、大きな曲がり角を迎えそう

だ。最大手のセブンイレブン・ジャパンが24時間営業の見直しに向けた実験を始めることになった。全国の直営店から10店舗を選び、営業時間を午前7時から午後11時までに短縮する。

きっかけとなったのは、大阪府東大阪市のフランチャイズ(F/C)契約オーナーが、人手不足から営業時間短縮に踏み切り、本部から契約の解除と違約金を求められたことだ。

24時間営業を見直してほしいとの要望は、ほかのオーナーからも上がっていた。社会的にも注目を集め、セブンイレブンとして対応を迫られた格好だ。

少子化で人手不足が深刻になる中、実情に合わせた営業形態の変

更は避けられまい。便利至上主義だけでよいのか。消費者側にも意識改革が迫られている。

セブンイレブンは東京、熊本などの1都7県から立地や商圏を考慮して店舗を選び、時間短縮による収益や来店客数の変化などを検証。F/C加盟店で時短営業を導入するかどうかを検討する。

合わせて、加盟店への人手不足解消の支援も強化し、オーナー業務を本部社員が代行する制度も周知するという。

ファミリーマートはすでに時短営業の実験を始め、ローソンも加盟店の事情に応じて一部店舗で時短営業を認めている。

商圏や客層によつては24時間営業でなくてもよい店はあるはずだ。業界全体で多様な店舗運営が認められるような仕組みづくりを進めてほしい。

人手不足から、営業時間やサー

ビスを見直す動きは外食産業や宅配業界で先行している。

ファミリールーランの「ロイヤルホスト」は24時間営業の店舗を段階的に減らし、2017年1月に全廃した。宅配業界ではヤマト運輸が社員の昼休憩を優先するため、正午から午後2時の時間帯指定配達を廃止している。

コンビニの時短営業が進めば、人手不足への対応を迫られるほかの業界にも、見直しの動きが波及する可能性がある。

各種支払いや荷物の受け取りなども含め、コンビニは社会の中でなくてはならない存在となっている。災害時や夜間の防犯の拠点の役割も担う。だが、過酷な労働に支えられた利便さであっていいはずはない。

過剰を排し、適正で持続可能なサービスを求める暮らしへ。社会全体が変わる必要がある。

2019年3月6日付 5面

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説 象徴(しょうちょう) 迎(むか)え 店舗(てんぽ) 契約(けいやく) 踏(ふ)み切(き)り 違約(いやく)=約束を破ること 迫(せま)られた 変更(へんこう) 避(さ)け 商圏(しょうけん)=商店や商店街などが商取引を行う地域の範囲 考慮(こうりょ) 支援(しえん) 全廃(ぜんぱい) 休憩(きゅうけい) 波及(はきゅう) 支払(しはらい) 含(ふく)め 拠点(きょてん) 過酷(かこく)=きびしすぎるようす 過剰(かじょう) 排(はい)し

